

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智

2023年の夏は暑かった、そして長かった。11月になっても夏日を記録するなど日本全土がサウナになったようなサマーシーズンでした。例年であればお盆の頃から台風が入れ代わり立ち代わり襲来して災害をもたらしますが、同時にクールダウンもしてくれた。この夏はとにかく台風が少なかった。ラニーニャ・エルニーニョ現象の影響もあるのだと思いますが、この10年くらいは異常気象が当たり前になっているので、何が普通か分からなくなっています。

そして昨年一大事業として空調設備の一新を図ったことが、酷暑の中で救いになりました。病棟ホールや廊下への設置が主ですが建物全体を冷やす効果は十分にあったようで、これまでのように廊下のいたるところに扇風機を置いて涼をとるような光景は、この夏は見られませんでした。

気温と熱中症の記録としては2018年の方が上回っていたようですが、丸々2か月真夏日が続くとさすがに後になって影響が出てきます。身体的に不調となる患者さんは多いですし、職員も同様です。10月頃からインフルエンザが流行しているのも、酷暑の疲労から免疫力が低下していることと無関係ではないと思います。

本格的な冬に備えて、適切な食事と十分な睡眠、規則正しい生活を意識して体調管理に努めていしましょう。

表紙写真 写真タイトル：「延命水の小滝」

撮影者：樋口 孝

常念岳・蝶ヶ岳の登山道の途中の烏川沿いに、延命水という岩の隙間からいく筋もの清水が白糸のように流れ落ち、苔(こけ)の緑とともに優美な水景色を作り出し、水を汲む人の姿も見られるところがあります。その奥に、小さな滝があります。

秋の病棟レクリエーション

1-1病棟では、11月に秋の病棟レクリエーションとして“芋ほりゲーム”を行いました。2チームに分かれチーム戦で行いました。

箱の中から新聞紙で作ったさつま芋を掘り出し、掘り出したさつま芋の総重量を競いました。リハビリのスタッフと病棟スタッフがお手伝いをしながら見守りを行い、スタッフからの励ましや応援の声を受けて患者さんは一生懸命ゲームに取り組まれました。ゲーム中は夢中になって取り組まれている方も多く、病棟には“芋ほり名人”も沢山いらっしゃいました。患者さんからは「いい芋が取れました」等の感想が聞かれました。



2-3病棟では、イチョウや桜の木の紅葉が見頃の10月後半に小集団グループの活動として病院敷地内を散歩しました。ちょうど今年の10月後半は暖かい日が続いており心地よい気温の中で散歩を行うことが出来ました。患者さんは「あったかいね」「紅葉が綺麗ですね」「外の風が気持ちいいね」とお話しされており季節の移り変わりを感じることが出来たのではないかと思います。

衣料品販売が開催されました

10月25日には、衣料品販売が行われました。

今回は玄関ホールを利用し、たくさんの秋冬物衣類が用意されました。独歩できる患者さんは直接来場し、車いすの方は職員の付き添いで、気になる衣類を手に取り体に当て、選んでいました。外出に使えるような衣類も多くあり、コロナが終わり活動範囲がもっと広がればよいのにとおっしゃいます。思った以上に欲しいものがあり、買えないかと交渉する患者さんがいたり、服を手にとって仲良くおしゃべりをしている患者さんがいたり、にぎやかな催しとなりました。



スポーツ大会

文化祭に続き今年度2回目の病院行事として、スポーツ大会が10月11日、12日の2日間にわたり、開催されました。

スポーツ大会では“オーバルボール”というニュースポーツのゲームを行いました。オーバルボールとは卵型の楕円球のボールを、コートの方の得点ゾーンに転がし 乗せて得点を競う競技で、今回は1m離れた地点から4回転がし総得点を競いました。1-3、2-2、2-3病棟は年齢が若い方からご高齢の方まで幅広くいらっしゃいますが、力の差はみられず皆さんが同じ競技を楽しめている様子でした。スポーツ大会に向け皆さん1カ月ほど練習を行い本番に挑みました。そのこともあってか患者さんの中には練習の成果を発揮することが出来嬉しそうな表情をされていた方、力が入ってしまい練習通りにはいかず悔しそうな方もいらっしゃいました。

また応援の声をかけたり、高得点をとれた患者さんに拍手をしたり、普段の生活では見られない姿をスタッフも見る事が出来ました。上位6名に入賞された方には、賞状と置時計やTシャツなどいくつかから1つ選んで頂き景品としてお渡ししました。景品は、とても好評でTシャツなどは受け取った次の日から早速着てくださっている患者さんもありました。

スポーツ大会について患者さんからは、「楽しかった」「景品が嬉しかった」「練習の成果を発揮することが出来た」等の感想を頂きました。

病院行事は病棟のスタッフも参加し一緒に楽し

む、職員にとっても患者さんにとっても特別な時間です。小倉病院では、今後も多くの患者さんに楽しんでいただけるような行事を考え実施していきます。



最近の看護局より

2040年問題は、日本の人口減少と超少子高齢化が進行することで生じる問題です。看護界では労働力不足が課題として「少ない支え手で大勢の高齢人口をどう支えていくのか」に対して準備を進めることが求められています。私たち看護局では看護職員の確保、看護の質の担保にどう取り組めばいいのか考えています。

看護局では、年間目標が4つあり、その一つは人材育成・教育です。「専門職業人としての自覚を持ち、高度な看護・介護実践能力を身につけるために、自己研鑽に努める」この目標のために、看護主任・介護主任を中心に教育システムの構築に取り組んでいます。

令和4年度に導入した、配信サポートを中心にクリニカルラダーの導入に着手しました。全国的に精神科病院のクリニカルラダー導入は進んでおらず、試行錯誤の繰り返しでしたが、各自の努力もあり1年間かけて導入できました。また、配信サポートには費用がかかり導入して頂いた組織にも感謝しています。まだまだ、教育についての課題はあります。専門分野について知識・技術を習得できても、一方で社会人基礎力の向上についてどう学びを深めるかも課題となります。しかし、確実に一步一步スキルを身に着ける看護職員を見ると効果を感じています。

患者様、ご家族、地域に満足される看護・介護を探求し提供することが目標ですが、看護職員一人ひとりも人間的に成長して働き続けられることを目指します。そして結果的に看護職員の確保や看護の質の担保にも繋がることを望ましいと思います。

また、今後も患者様、ご家族におきましては、入院生活上で至らないことが生じ、ご不便やご迷惑になることがあれば、遠慮なくご指導いただきたいと思います。

看護局長 高山順一

病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されことなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記

安曇野日和41号をお届けします。11月半ばを過ぎ、絶壁を駆け下りる勢いで気温が下がっています。直近まで晩秋の空気を感じていたと思えば夏が戻ったようになり、日の出は確実に南に移動しているのにこの暑さはいったいどこにあったのだらうと思わせる激しい気候の変化を体験しました。そして突然の冬。比較的安定した温度環境が保たれる院内と異なり、例年に輪をかけて体調を崩しやすいこの頃、この号を手にとられる皆様、ご自愛ください。